

経営学領域におけるアクティブ・ラーニング手法の体系化の試み

Trial to Systematize Active Learning Methods in the Field of Business Administration

植竹 朋文^{*1}, 間嶋 崇^{*1}

Tomofumi UETAKE^{*1}, Takashi MAJIMA^{*1}

^{*1} 専修大学 経営学部

^{*1} School of Business administration, Senshu University

Email: uetake@isc.senshu-u.ac.jp

あらまし：近年、各種 ICT ツールの普及とあいまって、学生の能動的な学びを促す「アクティブ・ラーニング」と呼ばれる教育手法が注目を集めており、多くの大学において取り入れ始めている。そして理系や情報系の科目だけでなく、経営やマーケティングといった経営学領域においても、様々な手法が提案され始めてきている。しかし、提案されている経営学領域における手法は個々の学習項目に対するものにとどまっているものが多く、その位置づけや、実施方法について十分に体系化されているわけではない。そこで本研究では、経営学領域における学習項目の特徴とアクティブ・ラーニング手法の形態に注目し、効果的なアクティブ・ラーニングを提案/実施するためのフレームワークについて検討する。

キーワード：アクティブ・ラーニング、経営学、体系化、グループワーク、PDCA

1. はじめに

経営学は実践的な学問であるがゆえに、理論をただ覚えるだけでなく「出来るようになる」ことも重要な学びである。そこで我々は、これまで経営学領域を対象としたアクティブ・ラーニング(以下、AL)手法について研究を行ってきた⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾。しかし従来の研究は、個々の学習項目に対して有効な AL 手法を提案することにとどまっており、個々の AL 手法が十分に体系化されているとは言い難い状況にある。

そこで本研究では、経営学領域でより適切な AL を提案/実施するために、経営学領域における学習項目の特徴とそこで必要とされる AL 手法の形態に注目し、体系化することを試みる。

2. 経営学領域におけるアクティブ・ラーニング手法の種類

経営学領域における AL の代表的なものとして以下のものがあげられる。

- ケーススタディやビジネスゲーム
企業経営を模擬体験させ、経営学の理論の理解を深める。ただし、事前に多大な準備作業が必要となる。
- グループワーク(以下、GW)
身近な素材⁽⁴⁾⁽⁵⁾をもとに GW を行い、学習内容と関連付けて理解を深める。学習項目と GW の内容を関連付けるのに工夫を要するが、グループ学習⁽⁶⁾が容易で、短時間で実施可能である。さらに、組織を対象としている経営学との親和性も高い。

以上の AL の特徴を鑑み、本研究においては GW を中心に以降の検討を進めることとした。

3. 経営学領域における学習項目の特徴

次に、経営学領域における学習項目をピックアップし、各項目の内容から GW に対する親和性(4段階)を筆者らの経験をもとに設定した(表1)。

表1 経営学領域における学習項目の特徴と GW に対する親和性

学習項目	学習内容	GW に対する親和性
経営とは何か?	経営管理/組織/戦略とは何か?	×
管理プロセス	管理過程論, PDCA, OODA, マネジャーの仕事など	◎
組織デザインと環境適合	分業, 組織構造, コンティンジェンシー理論など	○
モチベーション	欲求段階説, XY 理論, 期待理論, 内発的動機付け論など	◎
組織文化	強い組織文化, 組織アイデンティティなど	△
リーダーシップ	資質論, 行動論, 状況論, 変革型, フォロワーシップなど	◎
意思決定	限定合理性, ゴミ箱モデル, 集団浅慮など	◎
成長戦略	製品市場マトリックス, PPM など	×
競争戦略	5F 分析, 3つの基本戦略, RBV など	○
組織間関係	系列, 戦略的提携など	×
組織変革と慣性	組織変革論, 組織ルーティン論, 組織開発論, 組織慣性, コンフリクトなど	△
組織学習	ダブルループ学習, 両利きの経営, 学習する組織, 越境学習など	◎
CSR・経営倫理	サステナビリティ, SDGs, 組織事故・不正など	△
グローバル経営	グローバル化プロセス, 異文化経営など	×
日本的経営	三種の神器, 家の論理など	×

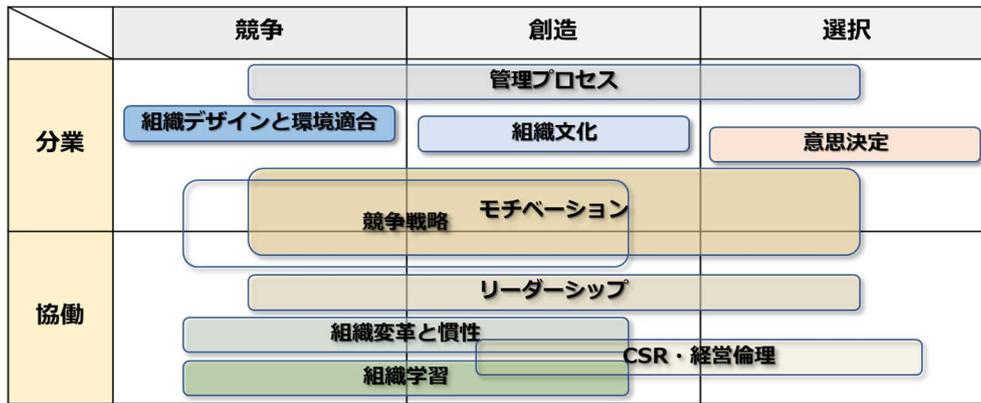


図1 経営学領域を対象としたグループワークの体系化

表1における学習項目・学習内容は、日本学術会議が示す経営学分野の教育課程編成上の参照基準⁽⁸⁾における狭義の経営学に相当する経営管理論、経営組織論、経営戦略論に範囲を限定し、それに関連した標準的なテキスト（有斐閣アルマシリーズ）と筆者所属機関における関連科目で取り上げられている主たる理論・概念を参考に作成した。

4. 経営学領域を対象としたグループワークの体系化

次に、経営学領域におけるGWに対する親和性がある学習項目とその項目に適合したGWの関係を明らかにするために、以下に示すGWの形態に注目し、その学習内容を考慮して整理・体系化した（図1）。

- グループワークの形態(分業/協働)
- コンテンツの形態(競争/選択/創造)

5. グループワークの実施方法

短時間のGWの教育効果を高めるためには、実施方法も重要となる。ここでは、我々が提案するPDCAモデルに基づいた実施方法(図2)を紹介する⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾。

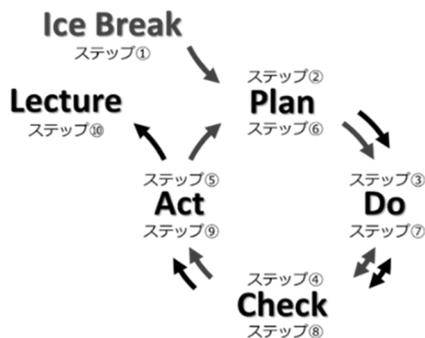


図2 グループワークの実施ステップ

短時間で質の高いGWを行うためには、心理的安全性を高めるアイスブレイクが必要である。そして、課題に対する理解を深めるために、二度のPDCAに基づいたGWを実施する。さらに、経験的学習の効果を高めるために、対話的な振り返り⁽⁷⁾の時間を設定する。最後に、GWで得た学びと経営学的なコンセプトや理論を結びつけるレクチャーを実施する。

さらに、Jamboardに代表されるアプリ等を利用することでGWを効率的に実施することが容易となる。

6. まとめ

本研究では、従来個々の学習項目ごとに提案/実施されてきた経営学領域におけるGW手法を、学習項目の特徴とその形態に注目し、体系化することを試みてきた。さらに、経営学領域におけるGWを効果的に実践する手法についても論じた。

しかし、本研究の議論はこれまでのGW実践や探求に基づく試論に過ぎず、さらなる本格的な検討が必要であることは言うまでもない。

● 謝辞

本研究は、令和5年度情報科学研究所共同研究助成「経営学領域でのアクティブ・ラーニング実施におけるフレームワークに関する研究」(植竹 朋文・間嶋 崇)の助成を受けたものであり、成果の一部である。ここに記して感謝したい。

参考文献

- (1) 間嶋 崇, 橋田 洋一郎, 植竹 朋文, 「経営学教育におけるアクティブ・ラーニング手法の検討」, 『2015年度経営情報学会秋季全国研究発表大会予稿集』, pp.1-4 (2015)
- (2) 間嶋 崇, 橋田 洋一郎, 植竹 朋文, 「経営学教育へのアクティブ・ラーニング手法の導入」, 『専修大学情報科学研究所 所報』, 専修大学情報科学研究所, No. 87, pp. 17-24 (2016)
- (3) 間嶋 崇, 植竹 朋文, 「ソーシャルディスタンスを意識したグループワーク手法の試案」, 『専修大学情報科学研究所 所報』, 専修大学情報科学研究所, No. 98, pp. 1-8 (2021)
- (4) 島 吉伸, 「折り鶴から学ぶコスト・マネジメント: 会計教育へのアクティブ・ラーニング導入事例」, 『商経論叢』 169, pp.395-403 (2013)
- (5) 潮 清孝, 「『ペーパータワー』を用いた会計教育の取り組みとその効果」, 『第45回京都管理会計協会ディスカッションペーパー』, pp.1-8 (2014)
- (6) 新井和広・坂倉杏介, 『グループ学習入門: 学びあう場づくりの技法』, 慶應義塾大学出版会 (2013)
- (7) 天野 勝, 『これだけ! KPT』, スバル舎リンケージ (2013)
- (8) 日本学術会議, 「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準: 経営学分野」 (2012)